佐々連尾山

佐々連尾山と大森山は本山町の清流汗見川を辿り白髪トンネルより登りはじめる。
本山町と四国中央市の境とあって、とても奥深く高知県側は広大な坂瀬山国有林、愛媛県側は佐々連尾山国有林の主峰となっている。
県境稜線は笹原やブナの天然林など変化に富み春にはアケボノツツジが彩る静かな山だ。
「サザレオ」という独特の響きが、なんだかとても心をひきつける山でもある。

アケボノシシジの花言葉は「安心」「控えめ」「雅やか」。小さな花が枝いっぱいに見えるので、遠くから見ると美しい雲のようでもある。下から見上げるのも、こぼれるような桃色の花につつまれるようだ。

アケボノの丘（土佐峰）

アケボノツツジ群生地

岩

昭和40～50年代はじめにかけて、別子、白滝、赤石など多くの鉱山が四国山地のあちこちで操業をしていた。この山の北側にも「佐々連尾銅山」として四国最後となる昭和54年まで操業していた。

作業道歩きも楽しい

新緑の山歩きは気持ちよくてたまらない。

ブナ林

分水嶺を意識して歩いていくのもとてもおもしろい。

作業道からはどこからでも、ひとがんばりで展望に出られる。

展望場

佐々連尾山 1404.3m

山頂は広葉樹林の中にあって展望はないが静かで落ち着く。

分水嶺

笹原の尾根歩き楽しくてたまらん。

シャクナゲ群生

森の風が心地良い♪

大ブナの駄場ワンダフル

春、色のなかった山が動きだす。春のブナ林、いちばん好きかも。

ブナの大木がたくさんある

ベイケイソウ群生

小ピーク

汗見川の源流域

四ツ岳

アケボノツツジやミツバツツジ新緑の柔らかい緑。春の山は最高だ。

赤石山系や登波山を望む

展望場

東に向きを変える。平坦になる。

大森山 1433m

主稜線から南に出た小尾根からは眼下に広がる坂瀬の山々を一望できる。

あまりにも気持ち良くてここで昼寝をしたくなる。

ブナ林

大ブナの駄場

これがたまるか!!急斜面にびっくりする。

展望岩 岩のテラス

ロープ

岩場

花と展望の山

アケボノツツジが岩尾根に彩りを添えてくれる。

ワイヤー縄はしご

深い谷を彩る緑を見ていると超快感。

猿田峠から主稜線までは急勾配で大きな岩が次々とまちかまえている。上りも下りも慎重に。

柔らかな明かりをともすように風にゆれるピンクのアケボノツツジ。アケボノは崖や岩山を好む。光を求めて、ほかの植物がいない厳しい場所を選んだかのようだ。花はこちらを向かずに光の方を向いている。

シジュウカラの姿を見る

小ピーク 1392m

緩やかなササ原が広がりブナの大木がみごとな森をつくっている。新緑、紅葉、霧氷。どの季節にも訪れてみたくなる。

300mを上がる

若いブナにカラマツが少しまじる

開けている。

若い樹林

作業道と交差

あすなろ峠

すべってコケた。

急坂

ここもニホンジカが多いことを実感する。ササは低く、フンや食痕も多い。

ササ深い

中川峠

猿田峠

石畳

明治45年 檜、落葉広葉樹植栽石碑

アセビ

ヒノキ林

登山道脇に「明治四十五年 檜、落葉広葉樹植栽」の石碑がある。土佐藩時代は本山のヒノキは吉野川を流して大坂まで運ばれていた。明治時代も再造林、植栽事業に力を入れていたことが伺える。

地図で見たら佐々連尾山は四国のまん中だ。

シカ盆栽だらけ

春が短い。季節の移り変わりが年々早くなってきたと感じる。季節を急ぐ傾向にあるのは人も同じだ。時間の流れがどんどん早くなる。せめて自然には、あわてず、穏やかにゆっくりと移ろいでもらいたいと願う。

春山の稜線を歩く。谷から風が吹き上がってくる。身体の中を吹き抜ける。アケボノツツジの枝が揺れる。

猿田峠

峠への道は汗見川流域の人たちと伊予とを結ぶ重要な往還だった。石畳が敷かれた長い歴史を刻む道でもある。現在は住友共電の鉄塔巡視路になっている。

峠

山に向かって上りから下りに変わるところが峠。この山にも二つの古い峠がある。四国山地の主稜線から伸びる数々の山ひだを越えて行くため、各地に多くの峠が多くある。昔、人々が歩いて越えていた峠も今は車やトンネルであっというまに越えてしまう。人が通らなくなった多くの峠は、忘れられようとしているが、人々が汗を流して生きるために越えていった峠があったということは忘れてはならないことだと思う。

白髪トンネルは照明なしの800m。昭和41年3月、猿田・坂瀬線完成の石碑

白髪トンネル

遠くに目をやると旧伊予道や作業道が見える。

中川峠

本山町と旧伊予三島の中之川を結んでいた往還の峠。大きくて、とても穏やかな表情をしている三界地蔵様が静かに峠を見守っている。

「サザレオ」という独特の響きに心がくすぐられあこがれの佐々連尾山を歩く。春山の移ろいは早くアケボノは終盤、ブナは新緑の季節を迎えていた。2024.5.2

汗見川はラムネ色!!

県道264号線

No.156

2024.10.5